

Ⅱ-① 坂井聡校長と河合純一氏のコラボ授業(小中学校)

特別支援教育専門の坂井聡校長とパラリンピックのレジェンド全盲の河合純一氏のコラボ授業を全校児童414名と保護者約200名、教職員21名を対象に実施した。また、同様の講演会を中学校でも実施した。

コラボ授業は河合氏の「パラリンピックを通して伝えたいこと」の話をベースに、校長が河合氏に質問することで具体化を図ったり、子供たちの意見や質問を引き出したりする役割を担った。

河合氏は本当に大切なものは友情や信頼などの目に見えないもの、仲間はずれにされる人がいない、よいところを生かすフルーツポンチのような社会をつくろう。夢は実現してこそその夢、夢への努力は今しかない。仲間をたくさんつってがんばってください。と子供たちへのエールを込めて熱く語った。

授業の終盤は、校長が総括として、困っていることに気づき「ちょっと手伝いましょうか」と手をさしのべる大切さを述べ、優しい社会をまず坂出学園からつっていきましょうと皆に呼びかけた。

1時間30分(2コマ分)のコラボ授業であったが、1年生から6年生まで、2人の授業に最後まで聞き入った。河合氏が校長の肩に手を置き、2人笑顔で仲良く退場する際には、会場割れんばかりの拍手が起こった。

終了後、熱心に控え室を訪れた児童は「最近、困ったことは何ですか」と質問し、回答に困っている河合氏の姿を見て、子供たちも筆者も、河合氏が全盲をすべて受け入れ。今を一生懸命かつ楽しく生きている姿に感動した。

以下、写真と参加者の感想を示す。

小学校

1 コラボ授業の様子



①河合氏の話に基づき



②河合氏に質問し具体化する校長



③子供たちの意見を引き出す校長



④河合氏に質問する児童



⑤熱心に聞き入る児童，保護者，教職員



⑥授業終盤は校長の総括



⑦この姿に割れんばかりの拍手が



⑧授業後も質問にきた児童

2 参加者の感想

<児童の声>

- ・河合先生に会えたこと，話を聞けたことがよかった。目が見えなくても、自分よりも早く泳げるし、パソコンを使って説明ができるし、なんでもできてすごいと思った。
- ・みんな混ぜてミックスジュースにしないで、一人一人助け合えるフルーツポンチみたいなクラスになったらいいなと思いました。
- ・「みんなちがってみんないい」の詩を思い出しました。いろんな人のいいところをもっといっぱい見付けられる人になりたいです。
- ・目が不自由な人のために伝票に切り込みを入れているのが優しいなと思いました。みんなの優しさで心があたたかくなりました。
- ・「努力は今しかない」と言っていて、感動しました。頑張って夢を追いかけることが大切と言うことがわかりました。
- ・目が見えない人でも、何か工夫をしたり方法を考えたりすることで、できることが増えることがわかりました。自分には「パラリンピックなんて関係ないや」と思っていたけれど、少し身近に感じました。
- ・困っている人に対して、10人中4人は無視をするという話を聞いていやな気持ちになりました。僕は6人の方に入りたいです。
- ・今まで障害がある人を見たことはあったけど、心配だけして接し方が分からなくて困っていたけれど、助け方がわかりました。困っている人がいたら、「何かお困りですか」と聞きたいです。
- ・「星の王子様」を家で見つけたので、「大切なものは目に見えないもの」を読んでみたいです。

<保護者の声>

東京オリンピックを前に、絶好のタイミングでの講演会は大変貴重な機会でした。河合先生がおっしゃっていた「ミックスジュースではなく、フルーツポンチ！」というお言葉が印象的でした。一人一人の個性を大切にしながら共存するというお考えに共感しました。また坂井校長先生がおっしゃった「助け合って、みんなが楽しい学校にしていきたい」というお話が心に残りました。坂井校長先生が先導役となり、児童が生き生きと過ごせる小学校になりますようお願いしています。

私自身、福祉を学び現場で働いていた経験があります。子ども達にも垣根ない考えや体験をしてもらいたいと常々思っており、去年の坂井先生のお話も大変感動したのを覚えています。河合先生の『夢は叶えるまで努力し続ける』という言葉には、毎日を全力で過ごしてこられた重みを感じました。また、坂井先生の子供達との目線までかがんで語りかけて下さる様なお話には、親も毎回引き込まれます。

学校の中で、お友達と個々を認め合いながら調和して過ごしていく。いずれ、成長して社会にでた際に、そういうことを当たり前でできる人であって欲しいなと思いました。河合先生には、子供達の素直な疑問に、真っ直ぐ向き合って答えていただいて、子供達も心に響いているだろうなと思いました。母親の私も、学ばされることが多々あり、とてもいい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。父親にも聴いて欲しい講演でした。

実際に全盲の河合先生に来ていただき、ご自身の経験を踏まえたパラリンピックの話が聞けたことは大変勉強になりました。河合先生を見ていると、目が見えていないなんて思えないほど生き生きと堂々とされていて、本当にすごい方だと思いました。子ども達もそう感じていたのではないかと思います。河合先生をはじめ障害のある方がどのような苦勞や、それに対してどうやって乗り越えてきたのか、そういう面も知りたくりました。

私自身もとても感動したとともに、これからの社会を担っていく子供達の夢の持ち方、周りの人をよく見て感じる力、そして手を差し伸べる勇気の大切さを帰って子供達と話しました。普段意識しないと困ってる人に気づくことすら出来ません。ほんの些細なことでも声をかけて互いに助け合える社会を作っていく事が大切だと思いました。

時々、白杖を使っている方を見かけます。声をかけたくても、どう話しかけて良いのか分からず、何も出来ないままでした。声のかけ方は相手よりも前から、また案内と誘導。困っている時はみんな同じであり共に生きるとは、こう言う小さな事から始まるのだなと思いました。個性を生かし合い生きる。フルーツポンチの中の1つ1つに、娘達、そして私もそうでありたいと思いました。とても勉強になり、今後の事も考えられる時間でした。

<教職員の声>

河合先生と坂井校長先生との自然なやりとりがあったので、低学年の子供たちにも分かりやすく、楽しく学ぶことができたと思います。坂井校長先生の肩に手を当てて歩く河合先生のお姿を拝見できたことで、目の不自由な方への接し方もイメージできたのではないのでしょうか。

大人になると、障害について「目が見えないのにどうやって色を選んでいるのか」といった素朴な疑問があっても聞きにくいことがあります。それを今回のコラボ授業で聞いて、遠い存在だった障害を近くに感じるようになりました。スマートスピーカーは、目が見える人にとっては、「画面情報がないので、不便だな」と感じていましたが、視覚障害者にとっては、この上なく頼りがいのある道具なのだとなり、一つのことを多角的に見ることの大切さに改めて気付かされました。知らないうちに自分の感覚が一面的に固まってしまうことを反省するとともに、これからも様々な立場、状況にある人が一緒に楽しく暮らせる社会を目指していきたいと思いました。

これまで研修等で学んできたことを、実際のパラリンピアンである河合さんの口から聞き、さらに理解が深まりました。子供たちも、「お茶を普通に飲んでたけど、目をつぶって飲むと自分はこぼしてしまう。すごいな。」などちょっとしたことでも、河合さんの様子から気付くことができたようです。

自分で自分に限界を決めてしまわないこと、そして、アイデアを出し合ったり工夫をしたりすること、さらに、実現に向けて努力を怠らないこと・・・等 これからの自分に生かしたい内容がたくさんありました。

講演をされている河合先生の様子を見て、「障がいがあるとはどういうことなのか」を改めて考えることができました。障がいは周囲、社会が生み出すものだと思います。その社会に適応しようとする自身の努力や周囲の協力、それを支える環境の力によって、障がいはなくせると感じました。河合先生のお話で印象的だったのは、互いの意見がぶつかりあったときにどうするのかという坂井校長先生の質問に対して、それぞれが許せるところまでを探るといふ旨のお話をされていたことです。障がいがある、なしではなく、それぞれが他者を思い、歩み寄ろうとする姿こそこれからの時代に欠かせないものだと感じました。また、学級作りにおいては、自分の努力だけではどうしようもない子供の存在を認め、支えていこうとする雰囲気を作りたいと感じました。

1 コラボ授業の様子



① 共生社会に向けて熱い思いを語る



② 真剣に話を聴く全校生徒



③ 多くの生徒が河合先生に質問



④ 生徒代表から講演をお礼

2 参加者の感想

<生徒の声>

- ・今日の講演を聴いて、どんなことがあっても自分の夢に向かって努力することの大切さを学びました。僕自身、苦しいことから逃げ出してしまうことがあります。苦しくても自分の夢や目標に向かって、日々努力したいと思います。
- ・河合先生のお話を聴く前は、障がいのある方は今の世の中を不便に思っているのだと勝手に思い込んでいました。ですが、その考えの全てが覆されました。障がい者や健常者と差別しているのは、私たち一人一人であることに気づきました。次世代のために、私たちがどう変えていけるかが大きな鍵だと思いました。
- ・フルーツポンチのように一つ一つの個性を活かすのが大事というお話を聴いて、私たちも一人一人の個性を大切にしながら、いい具合に混ざることができるようにならないといけないと思いました。
- ・私の家では、家族そろって東京2020を楽しみにしています。日本でのパラリンピックが世界で初めて2回目の開催であることは誇らしいことだと思いました。一層オリパスポーツに興味をわきました。
- ・「目が見えなくなっても僕は僕」という言葉がとても印象に残りました。私は何か上手いかなかった時、「私にはできない」とすぐあきらめてしまっていました。夢は叶えてこそ夢だと思います。私には将来なりたい理想像があるので、河合先生のように常に前を向いて自分らしく生きていきたいです。
- ・町中で白杖を使いながら一人である人がいたら、急に体にふれるのではなく、優しく声をかけて、手助けをしたいと思います。ユニバーサルデザインなどで、住む人、皆が住みやすい便利な共生社会を、私たちの意見や行動で創っていきたいです。皆が笑顔で楽しい町にしたいです。
- ・私は、何かを続けることが苦手です。すぐに面倒くさくなってやめてしまいます。でも、今日の講演を聴いて、夢を叶えるためには、その夢を持ち続け、さらに努力をし続けると叶うのだと思いました。何に対しても、コツコツと努力し、夢の実現に一歩ずつ近づいていこうと思います。

・今日、河合先生のお話を聴いて、障がいのある人とは思えないくらい楽しそうに話していました。私は、もし自分の目が見えなくなったりしたら、自分はどんな日々を過ごすのかと思い、考えてみると家の中のんびりとした生活をしてしまうのではないかと思いました。自分の夢を叶えるために、何一つあきらめない河合先生を見てすごいと思ったので、今度は私があきらめないことを広めていきたいし、一つ一つを全力でやりたいと思いました。

・講演を聴くことで自分の考えが変わりました。ただただ混ざり合うだけではなく、個性を活かし、お互いを引き立て合うフルーツポンチになりたいと思いました。これから自分の夢を追う途中でくじけそうになる時、嫌になる時が必ずあると思います。そういう時に大切なのは仲間の存在。普段から助け合い、共に成長できる仲間をつくりたいです。そのためには、私が困っている人を助けたり、笑顔を増やせるようなことを考え行動したりして、優しく思いやりあふれる人になりたいです。

・先生の言葉で印象に残ったのは、「夢への努力は今しかできない」という言葉です。中学3年となって「夢」について考える機会が多くなり、目標が決まらず悩むことがあります。どのような努力をすれば分らず、意味を失っていましたが、先生の言葉を聴いて、今しかできないことを全力でがんばろうと思うことができました。ありがとうございました。

・僕は、パラリンピックにはあまり興味はありませんでしたが、今回の講演を聴き、パラリンピックについてたくさん知り、来年が楽しみになってきました。僕も何か役立つことができるのなら、進んでたっしていきたいと思うようになりました。

・「まったく緊張しない状態はよくない」というのを聴いて、少し安心しました。私は緊張しやすく、少しのことですぐプレッシャーに負けそうになります。しかし、プレッシャーと上手に付き合っていくことが大切だと分かりました。また、「大切なものは目に見えない」も印象的でした。私も「星の王子さま」を最近読んでいて、心に残ったフレーズが同じでした。だから、信頼関係、愛情、友情などをこれからも大切にしていこうと思いました。

・もし私が障がいのある人になったら、障がいのない自分とある自分では、違う人になっていないのになっっていると思込んでしまうと思います。でも、河合先生は、何も変わっていないということで、そこからも変わらず夢を叶えるために努力して叶えたのは、とてもすごいことだと思いました。悩んでも河合先生のように「自分の夢を叶えるために頑張る」ということだけは、ぶれないようにしたいと思いました。

・障がいについて熱く語ってくれたので、今の世の中を変えたいと思いました。初めは小さな力でも、だんだんと大きくなり、僕たちも障がいのある方たちも両方が便利な世の中にしていきたいと思いました。

・パラリンピックで1位になって金メダルを取った時に、コーチや仲間のことが一番最初に思い浮かんだということ聴いて、いい結果を出すために、周りの人が助けてくれているということを忘れてはいけないと思いました。

<保護者の声>

・共生、共感、尊重の重要性を改めて感じました。この話を機会に、親子でいろんなことをいろんな時に話し合いたいと思います。

・健常者が助けるだけでなく、環境を整備することで自分でできるようにする手助けができる。共に考え、共に実現をめざしてがんばる。考えれば、もっとたくさんことができると気づかされました。

・障がいだけでなく多様性を認めてあげられる大人になってほしいので、子供と一緒に話し合いたいです。

・「障がいは個人の側にあるのではなく、社会が生み出しているのである」この視点があれば、障がい者だけでなく、全ての人生きやすくなると思います。少子高齢化が急速に進む今日の問題も、この視点から見ると新たな解決方法が見えてきそうです。

・「変わったことは何だろう？→何も変わることはない。→自分は自分！」この心のあり方は、何か大きな壁を抱えた時にもがき苦しんだ後、再び前を向き歩き始める時の心境と同じだと思います。こんな思いを中学生の頃に体験されたことが、その後の活躍の土台になっているのですね。感動をありがとうございます。

令和1年10月1日

「パラリンピックのレジェンド附属坂出学園で講演会」

附属坂出学園では、SDGsの目標の一つである「誰一人取り残されない社会」を実現するためには、個々の児童生徒が多様性を受け入れることができるようになる必要があると考えています。そこで、理解教育の一環として、パラリンピックで金メダル5個を含む21個のメダルを獲得している河合純一氏をお迎えして児童生徒、保護者向けの講演会を実施することになりました。

演題 「パラリンピック、自分、児童生徒の皆さんに期待すること」

【講師プロフィール】

講師 河合純一氏

1992 バルセロナ大会／1996年アトランタ大会／2000年シドニー大会／2004年アテネ大会／2008年北京大会／2012年ロンドン大会、パラリンピック6大会に競泳日本代表として出場。

金5個を含む21個のメダルを獲得。

独立行政法人日本スポーツ振興センターに勤務。

一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長

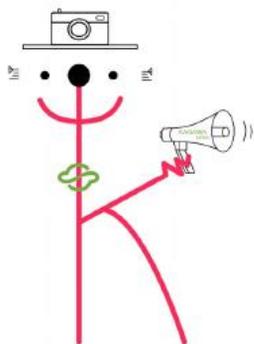


日時場所等

2019年10月7日(月)

10:45～12:00 香川大学教育学部附属坂出中学校 体育館

13:40～14:40 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館



➤ お問い合わせ先

香川大学教育学部附属坂出小学校 副校長 樽本導和

TEL:0877-46-2692

E-mail:tarumoto@ed.kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合

香川大学教育学部附属坂出小学校 教頭 出演大資

TEL:0877-46-2692 FAX:0877-46-5218

E-mail:sakashokvoto@ed.kaaawa-u.ac.jp